

1 結果の概要（全体の傾向）

国語の授業や読書の環境について、
今一度見直しをしましょう！

- ・ 県の平均正答率はA問題 80.5%、B問題 54.8%であり、A・B問題ともに全国の平均正答率（A 81.6%、B 55.6%）を下回っています。また、年々全国平均を下回る割合が大きくなっています。
- ・ 領域別では、「書くこと」A問題 県 55.0%（全国 57.5%）、B問題 県 46.3%（全国 46.8%）が課題です。
- ・ 「手紙の形式」や「雑誌の特徴」の正答率の低さなどから、言語活動の充実が課題と言えます。
- ・ 国語の授業が分からないと回答した児童が増加（平成22年度比較）しています。
- ・ 一斉読書の実施率が徐々に低下しています（平成21年度以降）。

よくできていました。

- 「話すこと・聞くこと」のA問題の県の平均正答率は、全国の平均正答率を下回るものの、80%に近い結果でした。
 - ・ A²～³平均値 県 79.0%（全国 79.4%）
- 「読むこと」のA問題の県の平均正答率は、全国の平均正答率を下回るものの、80%を上回る結果でした。
 - ・ A⁴～⁵平均値 県 82.0%（全国 82.1%）

こんな課題が見られました。

◆ 「書くこと」の領域についての問題は、正答率が50%前後という結果であり、全国の平均正答率と比べても課題が見られます。A問題の「書くこと」についての県の平均正答率は55.0%（全国57.5%）であり、B問題の県の平均正答率は46.3%（全国46.8%）でした。

例) A⁷ 新聞の報道記事のリードに必要な事柄を整理し、一文にまとめて書く。県 37.3%（全国 43.2%）

〔取材した内容の一部〕

- ① 合唱コンクールの県大会が、七月一日に開かれた。
- ② そのコンクールに、第三小の合唱部が出場した。
- ③ 第三小の合唱部は、そのコンクールで金賞に選ばれた。
- ④ 第三小の合唱部は、来月開かれる全国大会に出場することになった。

（メモが続く）

〔学校新聞の記事の一部〕

第三小の歌声 全国へ
県大会で金賞

七月一日、合唱コンクールの県大会に出場した本校合唱部が、

（記事が続く）

実施していない場合には、ぜひ児童の実態把握のためにも調査してみましょう。

こんな問いでした。

第三小の新聞委員の内山さんは、学校の合唱部が活やくしていることを学校新聞の記事に書くことにしました。【学校新聞の記事の一部】の□の中に、【取材した内容の一部】の①から④までを一文にまとめて書きます。書き出しの言葉に続く内容を、二十字以上、三十字以内で書きましよう（書き出しの言葉は、字数にはふくみません）。

正答は、
「金賞に選ばれ、来月開かれる全国大会に出場することになった。」

結果は次のようでした。

正答率	
県	37.3%
全国	43.7%

無回答率	
県	8.9%
全国	7.5%

無回答を減らしたいですね。

どんな力を見ようとする問題でしょう？

第5・6学年B「書くこと」
ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたりすること。

児童がつまづいたところは？

- 問題文の意味が理解できなかった（無回答 全国7.5%）
- 一文の意味が分からなかった（解答類型③ 全国24.2%）
- 必要となる事柄を整理できなかった（解答類型② 全国0.2%）
- 字数の範囲で書くことができなかった（解答類型⑨ 全国24.8%）

◆ 他の「書くこと」についての問題においても、課題が見られます。

例) B¹二 目的や意図に応じ、適切に敬語を使いながら、返事の仕方と内容を記述する。県 54.2%（全国 55.2%）

例) B¹三 手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛名のそれぞれの位置を適切に選択する。県 19.8%（全国 23.5%）

◆ A問題、B問題とも県の平均正答率は、全国の平均正答率と比較した場合、徐々に低下していることが分かります。

(全国の平均正答率を100とした時) H19A-101、H19B-106、H20A-99、H20B-105、H21A-99
H21B-101、H22A-99、H22B-101、H24A-98、H24B-99

◆ 児童質問紙(47)「国語の授業がよく分かる。」と回答した児童の割合が減っています。

H24年度 県81.5%(全国83.1%)、H22年度 県82.7%(全国82.3%)

◆ 児童質問紙(52)「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。」と回答した児童の割合について、全国の平均との差が広がっています。

H24年度 県67.7%(全国71.3%)、H22年度 県68.9%(全国69.2%)

◆ 学校質問紙(17)「一斉読書の時間を設定している。」の結果について、全国の平均との差が広がっています。

H24年度 県43.4%(全国61.8%)、H22年度 県47.5%(全国61.6%)

※なぜ、「書くこと」についての結果に課題が見られるのでしょうか。

① 「書くこと」の時間が十分に確保されていますか。

「書くこと」の学習は、第1・2学年では年間100単位時間程度、第3・4学年では年間85単位時間程度、第5・6学年では年間55単位時間程度を配当することと定められています。また、その際、実際に文章を書く活動をなるべく多くすることとされています。「書くこと」の時間が確実に実施できたのかを確かめましょう。

② 書く事柄を整理する学習が不足していませんか。

こうした問題は、第5・6年生「全体を見通して事柄を整理すること」(課題設定や取材)はもちろんのこと、第1・2年生から「書こうとする題材に必要な事柄を集めること」を大切にした指導が行われたか確かめてみましょうというメッセージです。低学年や中学年での「書くこと」の指導を確実に行うことが大切です。また、書く事柄を簡条書きにすること(メモを作ることなど)も大切です。その上で、第5・6年では、目的や意図に応じた取材や、文章の構成や記述に即した整理をする学習を大切にすることが必要です。「書くこと」の単元で、たとえ1時間でも、書く内容を整理し、構成する授業を行いましょう。

③ 条件を決めて書くことの学習が不足していませんか。

第5・6年では、「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」ができるよう指導する必要があります。その際、「目的や意図」を具体的にすることや、「字数」や「書く分量」についても具体的にすることで、児童が意識できるよう、意図的に設定することが大切です。また、これらのことは、第1・2年から、各学年において指導すべき内容であることを忘れてはいけません。

④ 「話すこと・聞くこと」「読むこと」での書かせる指導に課題があるではありませんか。

「話すこと・聞くこと」「読むこと」の問題でも、記述をする問題は、正答率が低く、無回答の割合が多いという結果が出ています。「話すことを書く」「聞いたことを書く」「読んだことを書く」など3領域1事項に関係する様々な活動を効果的に関連させることが大切です。例えば、次のような指導が行われているかをチェックしてみましょう。

例) スピーチメモやスピーチでの構成表の簡条書きやスピーチ原稿を書く。

例) インタビュー等の取材で、大事なことや中心となる内容を押さえて、簡条書きにする。

例) 文学的な文章や説明的な文章に対する感想や意見、評価を書きまとめる。

例) 目的に応じて、文章を引用したり要約したりする。

⑤ 書いた文章や作品の評価や事後の指導が不足していませんか。

「書くこと」については、児童が書いた文章や作品についての評価や、事後の指導が大切です。指導事項の「交流」が新たに付け加えられたのは、児童同士での評価を大切にしたい意図も含まれています。また、教師が評価し、価値付けたり指導したりした文章や作品を、児童に確実に返すことが大切です。作文の評価は、児童の意欲に直結していることを意識して指導に当たることが大切です。

⑥ 日常的・継続的に分かりやすく説明する文章を書くことが不足していませんか。

児童には、普段から書く習慣を付けさせましょう。特に、分かりやすく説明する文章を、国語や他教科の授業はもちろん、学校生活などにおいても書く機会を設定することが大切です。

2 指導改善のポイント

【ポイント1】問題を使った授業を行ってみましょう。(国の資料を活用して)

教材研究などの研修の役割も果たします。

例1 主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係を押さえながら、四つの文を一文にする。

(全1時間 対象：第3学年以上)

1 文の定義を確認し、教師が提示する数例の文の構成について話し合う。

- 主語と述語との関係を捉える。
- 修飾と被修飾との関係を捉える。

2 A7の問題のリードの内容を踏まえ、【取材した内容の一部】の四つの文のそれぞれの構成や文と文との関係について話し合う。

3 教師が提示した【四つの文を一文にした例：▲】を改善する方法について話し合う。

4 「本校合唱部が」を主語にして四つの文を一文にする。

- 「本校合唱部が」という主語を文頭に置いて一文で書く。(■)
- 「…出場した本校合唱部が」のように主語を修飾して書く。(◎)

- 主語には――を、述語(述部)には――をそれぞれ引きましよう。
- 指示語を○で囲みましょう。
- くり返されている言葉を……で囲みましょう。
- 大事な語句にマーカーを引きましよう。



第三小の合唱部は、来月開かれる全国大会に出場することになった。

第三小の合唱部は、そのコンクールで金賞に選ばれた。

そのコンクールに、第三小の合唱部が出場した。

合唱コンクールの県大会が、七月一日に開かれた。

が、七月一日に開かれた。

した内容の一部の四つの文、四つの文を一文にした例)

七月一日合唱コンクールの県大会に出場した本校合唱部が、来月開かれる全国大会に出場することになった。

主語を修飾すると…

「…して、…して」という表現が二回続いている。

本校合唱部が、七月一日に開かれた合唱コンクールの県大会に出場して、金賞に選ばれて、来月開かれる全国大会に出場することになった。

文頭に「本校合唱部が」という主語を置くと…

「そのコンクール」は重複する言葉だから省略して「…して、…して」という表現が三回続いている。

合唱コンクールの県大会が、七月一日に開かれて、その中、第三小の合唱部が、金賞に選ばれて、来月開かれる全国大会に出場することになった。

目的や意図に応じて簡単に書く指導を大切に!

- ・ 報告文のまとめとして、調べて分かったことをメモにまとめさせましよう。
- ・ グラフから分かったことをメモにまとめさせましよう。

過去の問題を使って実態把握や授業に活用ましよう。

- ・ 平成19年度から平成24年度までの問題を児童と一緒にやってみましよう。

例) 古紙の再生利用について新聞にまとめる。(H19)

例) 図書館だよりや案内状を書く。(H20)

例) 報告文やはがき、手紙を書く。(H21)

上記は、国立教育政策研究所からの資料です。ぜひ活用を。

※過去の問題は以下のHPから手に入ります。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

【ポイント2】言語活動についての教材研究を行い、言語活動の特徴を捉えた上で授業を行いましよう。

教材研究の一つとして、言語活動の分析をましよう。

- ・ 教科書の例示や例文を参考にして、児童が行う言語活動を教師自身が、実際に行ったり、書いたりましよう。
- ・ 指導案の中や授業研究会では、言語活動の特徴や位置付け方について具体的に記述したり、話題にしたりましよう。

トランプナーの進捗スピードは…

活動	時間	内容
1	10分	トランプナーの進捗スピードを調べる。
2	10分	トランプナーの進捗スピードを調べる。
3	10分	トランプナーの進捗スピードを調べる。

日本人選手の特徴

今年の特長は…

「マラソン」

「言語活動の位置付け方」について

□ 例えば、児童が、「リーフレットで『やまなし』など、宮沢賢治の作品を紹介するために、の表現や内容を読み取っているんだ。」という目的意識をもてるように単元構成や各時間の学習を工夫することが大切です。

□ 例えば、「やまなし」について毎時間に書きまとめた文章を編集すると、リーフレットが出来上がるなど、単元を通して言語活動が出来上がるように工夫することが大切です。

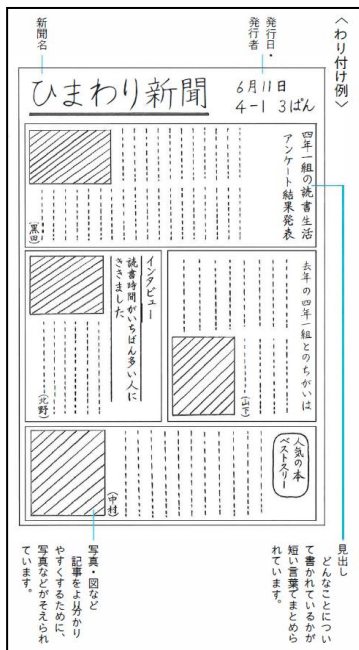
言語活動を通して指導する際には、次のポイントを押さえましよう。

- ・ 何を指導するための言語活動なのかを意識ましよう。
- ・ 言語活動で取り上げる文章や話の形式、構成、文体などを把握ましよう。
- ・ 単元の最初の段階から、児童が言語活動を具体的にイメージできるようにましよう。

【ポイント3】「書くこと」はもちろん、3領域1事項の授業の中で書く指導を行いましょう。

【書くことの授業での例】新聞づくりの時に・・・

- 記事として扱う内容を決める時に、箇条書きにしたり内容の整理をしたりする学習を大切にしましょう。
- 割り付けの意図を確認しましょう。
- 見出しは、内容を端的に表したものを確かめましょう。



※新聞づくりは、選材や構成、割り付けの位置に応じた内容や文体を考えるなど、指導事項を明確にした指導が大切です。

【読むことの授業での例】

毎時間の授業のまとめの書き方を指導

A小学校での実践から

- ・学年ごとにまとめて書く字数の目標を設定しましょう。
- ・まとめに使うキーワードを決め、授業の中でもキーワードを確認しましょう。
- ・まとめの文章のモデルを示しましょう。
- ・自分のまとめた文章を見直す時間を位置付けましょう。

※ A小学校の実践を生かすためのポイント

- 第6学年での目標を共通理解しましょう(例: 第6学年で3分間、100~150字で書きまとめるなど)。
- 発達の段階や各学年の指導の状況に応じた段階を設定しましょう(例: 字数の分量、使用する語句、穴埋めなどの形式の選択など)。
- まとめ文章のモデルについては、教材研究の一部として指導者自身が書きまとめましょう。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導での例】漢字や語句の学習で・・・

- 漢字や語句だけを繰り返し書いて覚えるのではなく、短文で練習させたり、短文を作らせたりしましょう。

【ポイント4】一斉読書の充実や必読書・推薦図書の設定など、読書の環境を整えましょう。

- 実生活と結び付いた出題となっているため、読書経験やイメージする力が問われています。
 - ・長い問題文や複雑な問題設定を読み、理解したり整理したりする力を児童に身に付けさせる必要があります。
 - ・実生活の中で国語の力を生かすような状況や場面を設定してあるため、読書などを通じた間接経験の豊かさや状況や場面をイメージすることができる力を身に付けさせる必要があります。

□一斉読書の実施日数を増やすなど、読書の環境を整える必要があります。

前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか。(H24 学校質問紙の結果から)

	基本的に毎日行った	週に複数回、定期的に行った	週に1回、定期的に行った	月に数回程度、定期的に行った	不定期に行った	行っていない
岐阜県	3.4%	40.0%	50.6%	1.1%	5.0%	0%
全国平均	18.4%	43.4%	28.2%	3.3%	4.8%	1.8%
秋田県	56.8%	33.9%	8.3%	0%	1.0%	0%
福井県	39.4%	44.5%	14.5%	0%	0%	1.6%

3 指導改善を進めるに当たって

- ◇ 次の資料に具体例事例が示されています。校内研修や授業計画などの資料として活用しましょう。
 - ① 平成24年度全国学力・学習状況調査小学校の結果を踏まえた授業アイデア例
(平成24年9月、国立教育政策研究所教育課程研究センター、<http://www.nier.go.jp/jugyourei/index.htm>)
 - ② 平成24年度全国学力・学習状況調査【小学校】報告書
(平成24年9月、文部科学省・国立教育政策研究所、<http://www.nier.go.jp/jugyourei/index.htm>)
- ◇ 課題が見られた問題に再度取り組み、児童の正答状況の比較をして学習指導の成果を確かめてみましょう。
- ◇ 単元末の既製のテスト問題に頼ることなく、自校として課題が見られた事柄については、達成状況を見るための独自のテストや調査を実施しましょう。
- ◇ 校内で指導の学級差や学年差が生まれないう、教材の共有化を図ったり、指導方法のアイデアを積極的に交流したりしましょう。

1 結果の概要（全体の傾向）

国語の授業や読書の環境について、
今一度見直しをしましょう！

- ・ 県の平均正答率は、A問題 75.6%、B問題 65.9%で、A問題・B問題ともに全国の平均正答率（A 75.1%、B 63.3%）を上回っています。
- ・ 領域別にみると、「読むこと」A問題 県 65.1%（全国 65.4%）が全国の平均正答率を下回っていることや、「言語事項」の問題には、全国の平均正答率を下回る問題が多くみられます（20問中8問）。
- ・ **国語の授業が分からないと回答した生徒が増加**（平成22年度比較）しています。
- ・ 一斉読書の実施率が全国平均を下回る割合が少しずつ広がっています（平成21年度以降）。

よくできていました。

- 「話すこと・聞くこと」のA・B問題の県の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っていました。
 - ・ A **1**一、**4**一の平均値 県 90.0%（全国 87.7%）、B **1**一の平均値 県 63.4%（全国 59.9%）
- 「書くこと」のA・B問題の県の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っていました。
 - ・ A **2**、**5**の平均値 県 90.2%（全国 88.1%）、B **1**三、**2**二～三、**3**三の平均値 61.5%（全国 57.4%）
- 「読むこと」のB問題の県の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っていました。
 - ・ B **2**一、三、**3**の平均値 県 63.5%（全国 61.5%）

こんな課題が見られました。

- ◆ 3領域について、平成22年度は全国平均を2.0~4.0%程度上回っていましたが、平成24年度については、いずれも全国平均を0.3~2.0%程度上回るに留まりました。
 - ◆ 「読むこと」については、全国の平均正答率とを比較した際、課題がみられる問題があります。
- 例) A **3**二 比喩という言葉と結び付けて、表現の仕方を理解する。県 37.3%（全国 40.4%）

二 「火の見櫓」
・ 東京では、「高圧線の高い鉄塔」

「よく熟した夏ミカン」
・ 東京では、「」

「遠い谷川の響きと、蛙の合唱」
・ 東京では、「救急車のサイレン」

一 次は、「ひく」が文になっている情景を、東京の情景と対応させて整理したものです。
き出しひく

に当てはまる言葉を本文中から探し、抜

こんな問いでした。

実施していない場合には、ぜひ生徒の実態把握のためにも調査してみましょう。

「この村の月は、まるでよく熟した夏ミカんだ」に使われている表現の技法を何と言いますか。3字以内で書きなさい（漢字、ひらがなのどちらでもよい）。

正答は、
「比喩」「ひゆ」「たとえ」

結果は次のようでした。

正答率		無回答率	
県	37.3%	県	17.2%
全国	40.4%	全国	18.3%

無回答も多く見られました。

どんな力を見ようとする問題でしょう？

第1学年 C「読むこと」
ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。
第1学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（1）イ（オ）比喩や反復などの表現の技法について理解すること。

生徒がつまづいたところは？

- 擬人法や倒置法と解答している生徒があり、表現の技法についての知識が教えられていないか、整理されていないことが考えられます。または、「3字以内」と「3字」との区別がついていない可能性も考えられます。

例) B3 二 物語に描かれている季節を選択する。県 34.1% (全国 34.2%)

3 中学生の川名さんは、小学生に「二ひきの蛙」を朗読することにしました。次は、「朗読する物語」と朗読することを書いた「川名さんのメモ」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

○……朗読の仕方の工夫
▼……理由

川名さんのメモ

「黄色だね」のあとに間を取って、からかうような口調で読む。
はたけてばったりゆきあつた二ひきの蛙が、けんかを始めるきっかけになる言葉だから。

朗読する物語

二ひきの蛙 新美 南吉

緑の蛙と黄色の蛙が、はたけのまんなかではたりゆきあいました。
「やあ、きみは黄色だね。きたない色だ。」
と緑の蛙がいました。
「きみは緑だね。きみはじぶんを美しいと思っているのかね。」
と黄色の蛙がいました。
こんなふうに話しあっていると、よいことは起こりません。二ひきの蛙ははじめました。
緑の蛙は黄色の蛙の上にとびかかっていきましました。この蛙はとびかかるのした。
黄色の蛙はあとあして砂をけとばしましたので、あいてはたびたび目玉かばりませんでした。
するとそのとき、寒い風がふいてきました。

こんな問いでした。

この物語に描かれている季節を、次の1から4までの中からすべて選びなさい。

どんな力を見ようとする問題でしょう？

第1学年C「読むこと」

ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。

生徒がつまづいたところは？

- 50%の生徒が、季節を直接表す語句（春・冬）に着目することはできているが、「もうすぐ冬のやってくることをおもいました」という表現から、それが秋の場面であることを捉えられなかったことから、間接的な表現から理解する力が不足しているようです。
- 文学的文章を読む際に、それぞれの場面がどのように設定されているか（とき・場所・人物など）を本文の言葉に即して捉える学習が不足している可能性があります。

◆ 記述式の問題（特に、条件が決められている問題）に課題がみられます。

例) B1 三 これからどのような言葉の使い方をしたいのかを具体的な言葉の例を挙げて書く。（県25.0%、全国20.6%）

三 この対談を読んで、あなたは、これからどのような言葉の使い方をしたいと考えますか。次の条件1から条件3にしたがって、あなたの考えを具体的に書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 対談での大岡さん、榎さんのいずれかの発言の内容を取り上げて書くこと。
条件2 これから使っていきたい言葉の例を挙げて書くこと。
条件3 八十文字以上、百二十文字以内で書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

80

120

こんな問いでした。

この対談を読んで、あなたは、これからどのような言葉の使い方をしたいと考えますか。次の条件1から3にしたがって、あなたの考えを具体的に書きなさい。

結果は次のようでした。

無回答率 県 10.4%
全国平均 13.9%

どんな力を見ようとする問題でしょう？

第1学年A「話すこと・聞くこと」

オ 話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、それぞれの発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。

第2学年B「書くこと」

ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。

生徒がつまづいたところは？

- 8.9%の生徒が、自分の考えを書くことができませんでした（条件①を満たしていなかった）。
- 35.9%の生徒が、これから使っていきたい言葉の例を挙げるができなかったり、これからどのような言葉の使い方をしたいのかを書いたりすることができませんでした（条件②を満たしていなかった）。
- 21.6%の生徒が、①～③の条件を複数満たしていない回答でした。

● 生徒質問紙（47）「国語の授業がよく分かる。」と回答した生徒の割合が減っています。

H24年度 県 69.2%（全国 71.2%）、H22年度 県 71.9%（全国 69.9%）

● 生徒質問紙（50）「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。」と回答した生徒の割合が減っています。

H24年度 県 60.9%（全国 59.4%）、H22年度 県 62.8%（全国 57.7%）、

● 学校質問紙（17）「一斉読書の時間を設定している。」の結果について、全国の平均との差が広がっています。

H24年度 県 70.6%（全国 79.8%）、H22年度 71.4%（全国 78.7%）※毎週実施、週に複数回実施を合計した割合

2 指導改善のポイント

【ポイント1】問題を使った授業を行ってみましょう。(国の資料を活用して)

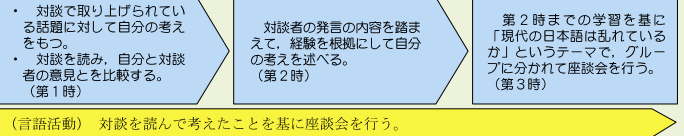
教材研究などの研修の役割も果たします。



- 問題文は、3段組で書かれていました。「話すこと・聞くこと」の問題ですが、上記の問題文は「読むこと」の対話文の一つとして、また、3段組形式の文章の一つとして指導をする資料としても活用できます。
- 「話すこと・聞くこと」の単元の最初に、生徒の実態把握のための資料や問題として活用し、生徒一人一人の学習状況に応じた指導をするデータとすることもできます。

授業アイデア例

学習の流れ



教材例 ● 「美しい日本語とは」
(平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B国)

第1時

- ① 「美しい日本語とは」をテーマにした対談を読む前に、そこで取り上げられている話題に対する自分の考えとその具体例などを記入する。

【ワークシートの例】

「美しい日本語とは」を読む前に	あなたの考え	具体例・経験・根拠など
○ 現代の日本語は乱れていると思うか		
○ 下のような言葉遣いをどう思うか		
(1) ハーフクエスチョン		
(2) ら抜き言葉		
(3) 「ヤバい」、「マジ」、「ウケる」		

- ② 対談を読んで自分の考えと比較し、自分の考えに近い発言とそうでない発言とに色分けして本文中に傍線を引く。

第2時

- ③ 対談の途中に入ったつもりで、対談の発言の内容に対する自分の考えを述べる。



前回、色分けして傍線を引いた部分の対談者の発言を一箇所選んで、その発言に続けて実際に発言してみましょう。ワークシートにメモしたことを参考に発言するとよいですね。

上記は、国立教育政策研究所からの資料です。ぜひ活用を。

口過去の問題を使って実態把握や授業に活用しましょう。

- 平成19年度から平成24年度までの問題を生徒と一緒にやってみましょう。

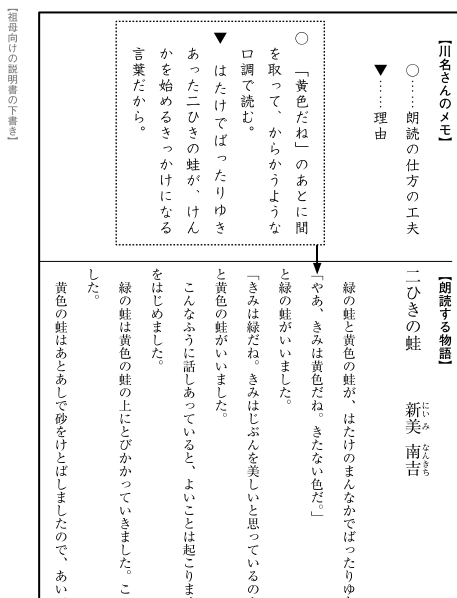
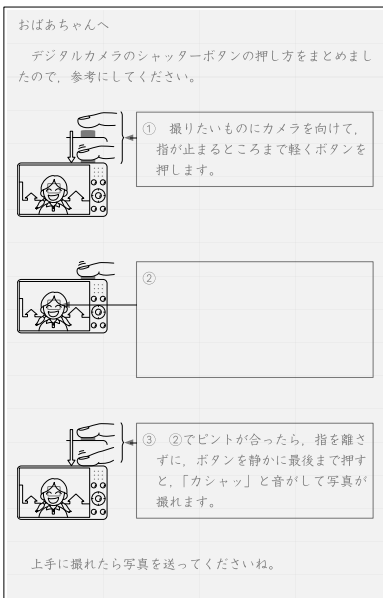
※過去の問題は、以下のHPから手に入ります。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

【ポイント2】言語活動についての教材研究を行い、言語活動の特徴を捉えた上で授業を行いましょう。

口教材研究の一つとして、言語活動の分析をしましょう。

- 教科書の例示や例文を参考にして、生徒が行う言語活動を教師自身が、実際に行ったり、書いたりしましょう。
- 指導案の中や授業研究会では、言語活動の特徴や位置付け方について具体的に記述したり、話題にしたりしましょう。



言語活動を通じた指導を行うことが大切です(単元を通じた課題意識を生徒がもてるようにするために)。例えば「読むこと」では、目的をもった読み方ができるようにするための手だてが言語活動の役割です。

例一「走れメロス」を作品の出来事を報道するために読み、新聞記事にまとめる。
例二小説や物語の続編や番外編、後日談を書くために「走れメロス」を読み、書きまとめる。

(留意点)

「新聞記事にまとめる」言語活動を手だてにする際、新聞の構成(割付)や構成に応じた内容、文章表現、内容と連動した見出し、リード文など新聞の特徴を生かすように指導することが必要です。

【ポイント3】「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の中で、論理的に書くことの学習を位置付けましょう。

【「話すこと・聞くこと」の授業での例】

- 説明メモを書かせ、実際に声に出して説明させましょう。
- 例) 応援合戦の説明や連絡を行う。
- 例) 消しゴムの製造方法について説明する。

消しゴムについて

3年1組35番 山本 はるか

消しゴムの原料

プラスチック類消しゴムの原料となるもの

- ・塩化ビニル樹脂
- ・可塑剤(かそざい)
- ・炭酸カルシウム など

消しゴムの製造方法

原料をよく混ぜる

型に入れ加熱し、固める

型から取り出し、切断する

字が消える仕組み

紙の繊維に入り込んだ黒鉛

黒鉛

黒鉛のカスとった黒鉛

4月12日

消しゴムについて

- 何からできているのか？
現在、広く使われているプラスチック製消しゴムの主な原料は、塩化ビニル樹脂、可塑剤、炭酸カルシウムなどである。
- どうやって作るのか？
原料をかくはん機とよばれる機械の中に入れて、よく混ぜる。この消しゴムの原料となる塩化ビニル樹脂、可塑剤、炭酸カルシウムなどの原料を型に入れ、熱を加えて、固める。大きな板状の消しゴムを型から取り出し、必要に応じて切断する。
- どうして消せるのか？
「字を書く」とは、紙の繊維の間に鉛筆の芯に含まれる黒鉛が入り込んでいくこと。逆に、「字を消す」とは、この消しゴムで字を消すとき、黒鉛の芯が黒鉛が書いた面に引き寄せられ、利用している、引き寄せられた黒鉛の数が減り、消しやすくなる。

固にするとこんな感じ↓

紙の繊維 黒鉛の粒 黒鉛のカス

4 ケースは必要なのか？

【「読むこと」の授業での例】

- 言語活動例を活用しましょう。
- 例) 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介文を書いて紹介する。
- 例) 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について、自分の意見を書きまとめる。
- 例) 物語や小説などを読み、批評文をまとめる。
- 例) 新聞記事に対して投書を書く。

今も色あせない魅力

太宰治生誕100年

6月20日

コラム

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導での例】 意味調べをするならば・・・

- ・ 単語ではなく短文で抜き出す・・・意味調べの時は、単語を含む短文を本文から抜き出す。
- ・ 文脈で使われている意味を辞書から選ぶ・・・複数意味がある場合は、単に辞書の書き写しではなく、どの意味かを選択する。

【ポイント4】一斉読書の充実や必読書・推薦図書の設定など、読書の環境を整えましょう。

- 実生活と結び付いた出題となっているため、読書経験やイメージする力が問われています。
 - ・ 長い問題文や複雑な問題設定を読み、理解したり整理したりする力を生徒に身に付けさせる必要があります。
 - ・ 実生活の中で国語の力を生かすような状況や場面を設定してあるため、読書などを通じた間接経験の豊かさや状況や場面をイメージすることができる力を身に付けさせる必要があります。

□一斉読書の実施日数を増やすなど、読書の環境を整える必要性が、学校質問紙の結果からも伺えます。

前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか。(H24 学校質問紙の結果から)

	基本的に毎日行 った	週に複数回、定 期的に行った	週に1回、定期 的に行った	月に数回程度、 定期的に行った	不定期に行った	行っていない
岐阜県	46.9%	23.7%	6.5%	7.7%	10.2%	5.1%
全国平均	64.9%	14.9%	2.3%	2.8%	8.0%	7.0%
秋田県	79.4%	11.8%	1.5%	4.5%	2.9%	0%
福井県	73.8%	9.7%	2.4%	0%	7.1%	7.0%

3 指導改善を進めるに当たって

- ◇ 次の資料に具体例事例が示されています。校内研修や授業計画などの資料として活用しましょう。
 - ① 平成24年度全国学力・学習状況調査中学校の結果を踏まえた授業アイデア例
(平成24年9月、国立教育政策研究所教育課程研究センター、<http://www.nier.go.jp/jugyourei/index.htm>)
 - ② 平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】報告書
(平成24年9月、文部科学省・国立教育政策研究所 <http://www.nier.go.jp/jugyourei/index.htm>)
- ◇ 課題が見られた問題に再度取り組み、生徒の正答状況の比較をして学習指導の成果を確かめてみましょう。
- ◇ 自校として課題が見られた事柄については、達成状況をみるための定期テストを活用したり、調査を実施したりしましょう。
- ◇ 校内で指導の学級差や学年差が生まれないう、教材の共有化を図ったり、指導方法のアイデアを積極的に交流したりしましょう。